

機関番号：37704

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2010

課題番号：20530653

研究課題名（和文） 犯罪被害者の支援に関する臨床心理学的研究
：PTSD, CIS に視点をあてて研究課題名（英文） A Study on Psychotherapeutic Support for Crime Victims
：focusing on PTSD and CIS.

研究代表者

久留一郎（HISADOME ICHIRO） 鹿児島純心女子大学大学院・人間科学研究科・教授

研究者番号：40024004

研究成果の概要（和文）：

平成20年度から継続している犯罪被害者（PTSD）36事例（延べ64回の心理療法）への支援や、警察官のCISについて分析した。その結果、通常の心理療法では悪化の可能性がある、PTSDの専門的な心理療法が求められていることが明らかになった。それらの結果をガイドラインとして作成し、関係機関へ配布し、犯罪被害者支援システムの構築を試みた。

研究成果の概要（英文）：

In this research we analyzed therapeutic counseling processes of 36 cases of crime victims suffering from PTSD, whom altogether 64 counseling sessions were given since 2009, as well as CIS of police officers. As a result, it became clear that ordinary counseling may worsen the conditions of PTSD. In order for them to be dealt with effectively, specified psychotherapy for PTSD is required. Making use of these findings, we made up a guideline and sent it to the institutions concerned. Thus we hope to build up a support system for crime victims.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	900,000	270,000	1,170,000
2009年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：心理学・臨床心理学

キーワード：臨床心理学、犯罪被害、ストレス、PTSD、CIS

1. 研究開始当初の背景

（1）本研究代表者（久留）は、1989年に文部科学省在外研究員（客員教授）として、ロンドン大学精神医学研究所にて、PTSD

Dの臨床と研究に携わり、帰国した1990年にわが国に、心理学の分野で、このPTSDの概念を発表した（久留、1990）。1991年には、わが国で初めて「PTSD」と診

断された事例への心理療法を実施し、その成果を発表した(久留・餅原、1997)。その発表を機に、ロールシャッハ研究第39巻では、PTSDの特集がとりあげられた。約20年にわたり、犯罪被害者のPTSDの予防と心理療法に携わっている。

(2) わが国においては、より効果的な臨床心理学的アプローチや支援システムは十分に確立されているとはいえ、その内容は多種多様であり、多くは、欧米や医学モデルの方法論に準拠したものが多くという現状がある。特に、犯罪被害者に関しては、わが国では2005年に「犯罪被害者等基本法」が施行されたばかりであり、その研究やアプローチのありようについても発展途上の状況にある。

(3) 救援者のストレス(CIS等)研究においても、警察官の3.0%にPTSDの既往があり、PTSDの予備群を含めても12.5%と高い数値が見出され(餅原、2006)、支援に携わる警察官の二次受傷も指摘されるようになった(上田、2006)。

これらの動向から、支援者のストレスについても明らかにし、臨床心理学的アプローチ(予防とケア)の確立と犯罪被害者支援システムの構築は急務である。そのような経緯から、本研究の着想に至った。

2. 研究の目的

(1)

(1) 犯罪被害者への臨床心理学的アプローチについて国内外の情報収集・情報交換を行う。

(2) 犯罪被害者(PTSD: Post Traumatic Stress Disorder; 外傷後ストレス障害)とその支援者(被害者支援担当の警察官等)のストレス(CIS: Critical Incident Stress; 惨事ストレス)状況を把握する。

(3) 犯罪被害者や支援者のストレスを軽減

し、犯罪被害者に対して誰もがより適切な支援ができるようなアプローチの共通性を見出し、犯罪被害者支援システムの構築を試みる。

以上を研究の目的に、本研究に着手した。

3. 研究の方法

(1) 犯罪被害者への臨床心理学的アプローチについて、インターネット検索、チェコ: プラハと、英国: ロンドンの大学・関係機関における犯罪被害者支援に関する学術交換を行う。

(2) 犯罪被害者(PTSD: Post Traumatic Stress Disorder; 外傷後ストレス障害)への心理療法、キーパーソンへの心理教育を実施・継続し、状態像を把握する。また、彼らの支援者(被害者支援担当の警察官等)のストレス(CIS: Critical Incident Stress; 惨事ストレス)状況について、2006年に回収したアンケート調査結果について統計処理し、分析する。

(3) 犯罪被害者や支援者のストレスを軽減し、犯罪被害者に対して誰もがより適切な支援ができるようなアプローチの共通性を見出し、犯罪被害者支援システムの構築を試みる。そのために、ガイドラインを作成し、配布する。

4. 研究成果

平成21年度に情報収集した海外(チェコ/英国)のデータ等が「臨床心理学」第10巻第5号(金剛出版)に掲載された。

(2) 平成20年度から継続している犯罪被害者(PTSD)36事例(延べ64回の心理療法)への支援について、本人が求めている支援等について把握し、その経過と結果を分析した。その結果、通常の心理療法では悪化の可能性があることが明らかになった。また、犯罪被害者のみならず、彼らを取りまくキー・パーソン(家族、友人、警察官等)への心理療法、サイコ・エデュケーション(症状の意味とその後の経過について)は、必要不可欠であり、可能なかぎり、心理療法は

複数で担当することが望ましいことが見出された。

つまり、一人は、犯罪被害者本人の心理療法を実施し、出来事については、本人からは聴取しない。相手を尊重し、少しでも気持ちが安らぐことを目的にかかわる。

もう一人は、キー・パーソンへの心理療法等（周囲が健康で、最大の味方になることが回復力を促進する）を実施する。

(3) (1)(2)の結果および、犯罪被害者へ携わる警察官のC I Sについて統計処理をした結果についてガイドラインを作成し、犯罪被害者支援者の要請と、関係機関（警察、行政、弁護士会等）へ配布し、犯罪被害者支援システムの構築を試みた。

(4) 以上の研究成果についての報告書を作成し、関係機関へ配布した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 14 件)

- ① 久留一郎、災害救助と惨事ストレス障害～救援隊のメンタル・ヘルス～、日本催眠学会、催眠と科学第 22 巻第 1 号、2008、1-6
- ② 餅原尚子、久留一郎、ロールシャッハ・テスト反応における侵襲性と促進性について～PTSD症状を呈した 2 事例より～、九州神経精神医学第 55 巻第 3～4 号、2009、176-177
- ③ 餅原尚子、海外からみた被害者支援の現在～チェコ/プラハ、英国/ロンドンより～、臨床心理学第 10 巻第 5 号 (金剛出版)、2010、779-783

[学会発表] (計 12 件)

- ① 餅原尚子、久留一郎、警察官のストレス (PTSD、C I S、S T S) に関する調査研究、日本心理臨床学会第 27 回大会、2008 年、茨城県
- ② 久留一郎、Trend on Support for Crime Victims in Japan(PTSD),Czech-Japanese Conference about Psychological Aspect of Crime Victims,2010,Charles University
- ③ 餅原尚子、久留一郎、犯罪被害に遭ったこどものカウンセリング～主観的意味づけと症状の關係に視点をあてて～、第 58 回九州学校保健学会、2010、大分県

[図書] (計 2 件)

- ① 久留一郎、トラウマとは/トラウマ体験の症状、危機への心理支援学、日本心理臨床

学会監修、日本心理臨床学会支援活動プロジェクト委員 (遠見書房)、2010、27-28
② 久留一郎編集、トラウマと心理臨床：被害者支援に求められるもの、現代のエスプリ (ぎょうせい) 524 号、2011、184

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]

ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1)研究代表者

久留一郎 (HISADOME ICHIRO)

鹿児島純心女子大学大学院・人間科学研究科・教授

研究者番号：40024004

(2)研究分担者

餅原尚子 (MOCHIHARA TAKAKO)

鹿児島純心女子大学・国際人間学部・教授
研究者番号：70352474

関山 徹 (SEKIYAMA TORU)

鹿児島大学・教育学部・准教授

研究者番号：40363600

(3)連携研究者 なし